

## (12) 生徒指導研究会

会長 溝渕 忠 (東中筋中)  
副会長 中川 智之 (中村中)  
事務局 川村 拓也 (西土佐中)

### 1. 研究主題

「組織的に対応できる生徒指導のあり方」

### 2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和2年 8月18日(火)	夏季研修会 ①スクールカウンセラーによる講話 「不登校の現状と効果的な支援について」 講師：高橋昭人、小松宏暢、森島健太 (高知県教育委員会人権教育課)  ②四万十市少年補導センターからの報告 「四万十市の問題行動の実態」 講師：河野通久 (四万十市少年補導センター)	中村中学校	18名 参加

### 3. 夏季研修会

- 日時 令和2年8月18日(火) 13:30~16:45
- 会場 四万十市立中村中学校 図書室
- 日程 開会 (13:30)  
スクールカウンセラーによる講話と協議 (13:30~15:30)  
四万十市少年補導センターからの報告 (15:45~16:45)  
閉会 (16:45)

### 4. 研修内容

今年度の夏季研修会では、高橋昭人カウンセラー、小松宏暢カウンセラー、森島健太カウンセラーを講師にお招きして、研修前半は不登校の現状と効果的な支援を中心に、講話や事例を踏まえたグループでの協議を行った。研修の後半では四万十市少年補導センターの河野通久先生をお招きし、四万十市の問題行動の実態を中心に、実際に四万十市周辺の写真や SNS に関するアンケートの集計結果の報告をしていただいた。

不登校の現状と支援についての講話では、高知県における不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、1000人あたりの不登校児童生徒数が20.9人と全国で2番目に多い



という現状にあるということを教えていただいた。また、不登校のきっかけとして、友人との関係が 52.9%、生活リズムの乱れが 34.2%、勉強がわからないが 31.2%という結果が出ていることがわかった。特に友人との関係については、年々数値が上がっており、これは SNS 等の問題とも関わりがあるということを教えていただいた。グループごとの協議では、不登校の架空事例をもとに、どのような対応や支援が考えられるかを検討したり、各学校での課題などについての解決策を話し合ったりし、とても充実した活動を行うことができた。

四万十市少年補導センターの河野通久先生からの報告では、主に SNS に関するアンケートの集計結果から見られる課題等についてのお話をしていただいた。四万十市では、インターネットの利用率がとても高く、利用時間の平均も小学校が平日 65 分、休日 112 分、中学校では平日 117 分、休日 189 分と利用時間がとても多いということを教えていただいた。個人専用のスマホ所持率についても、中学校では 50%を超えているということがわかった。また、中学生ではインターネットでしか知らない人がいると答えた生徒も多く、事件やネットトラブル増加の危険性もあり、学校全体でトラブルの未然防止や解決に努める必要があると感じた。学校においてもスマホやタブレットが導入される時代の中で、学校ができること、家庭ができることについて、今後考えていく必要があるということを共有することができた。



#### 4. 今年度の成果と課題

新型コロナウイルスの影響もある中、夏季研修会では講師の先生方をはじめたくさんの方々にご協力いただき、講話やグループでの協議、情報共有を通して各校の先生方と交流することができ、大変有意義な研修を行うことができた。今回の研修内容を各校に持ち帰って共有し、不登校児童生徒への効果的な支援や、SNS 等の問題解決・未然防止などに努めていかなければならないと感じた。

今後も四万十市教育研究会の夏季研修を通して、研究主題である「組織的に対応できる生徒指導のあり方」について各校の先生方との学びを深め、日々の学校現場で実践していきたい。

